

CLOSE UP

クローズアップ

鏡を見るように、外国の社会経済を
身近に感じ、学んでほしいと思います

アメリカの金融システムや経済政策について、1930年代の大恐慌期の頃と現在を比較しながら研究を続けられている大橋先生。「もっと外国の社会経済を身近に」と学生が興味を持てる講義を行いながら、「真の国際人としての力を身につけてほしい」と日々教育や研究に打ち込んでいらっしゃいます。



■ 金城学院大学 現代文化学部 国際社会学科

大橋 陽 准教授

■ 経済学修士。研究課題はアメリカ経済史・金融史、アメリカ経済論、大恐慌期アメリカの経済政策。政治経済学・経済史学会、社会経済史学会、証券経済学会、アメリカ経済史学会所属。

異文化に親しみながら 外国の経済や社会を学ぶ

アメリカ経済史を研究するきっかけとなったのは、大学時代の講義です。最初の講義でドイツの社会学者、マックス・ウェーバーについて解説を受けたのですが、その時の自分にとっては大変難しい内容で、最初はとにかくわかりませんでした。その「わからない」ということに対して大変興味がわき、「もっと社会のことを知りたい」と思い、勉強し始めたのです。折しも私が大学に入学した1991年はバブル崩壊の年でしたが、これまでに訪れた不況と同じく「卒業する時までには回復するだろう」と楽観視しておりました。しかしどうも今までとは様相が違うということに気づき、またどうしてこの深刻な不況に陥ったのかを知りたいと考え、それが今の研究へつながったのだと思います。今は1929年に起こった世界恐慌でアメリカがどんな政策を考え、選択していったかについて研究をしています。私は2008年から1年間、ジョージワシントン大学で客員研究員として在籍しましたが、その時に起こったリーマンショックやそれに続くオバマ大統領の就任などが当時の世界恐慌の様子と重なり、研究を進める上で参考になりました。またその経験が今の講義でも大変役立っていると思います。

私は今、現代アメリカの経済や国際ビジネス事情、現代文化概論などを担当しています。講義ではまず、アメリカの生活や文化についての写真や動画を見せながら話を行い、学生たちが異文化に親しみながら経済や社会に興味を持てるよう工夫をしています。例えば客員研究員時代に経験したオバマ大統領の就任式の時の写真や、

あるいはハロウィンなど国を挙げて行うイベントの時の様子、またこういう季節の行事の時にはこんな料理を出す、といった話までその時によって内容はさまざま。もともと異文化や外国の社会経済に興味を持ってこの学部を選んできた学生たちですからみんな目を輝かせて聞き入り、その後の講義にも自然と熱が入るようですね。

私はいつも学生たちに「外国のことを学ぶことは、鏡を見ることに似ている」と話します。鏡を見るということは、ただ物としての鏡を漠然と見るのではなく、そこに映し出された自分の姿を見ることです。外国の社会経済を学ぶこともこれと同じで、ただ単に「アメリカでは今、こんな経済や社会情勢になっている」と受け止めるのではなく、そのことを自分たちが今住んでいる日本と比較する、あるいは今の自分たちの立場ではこう思うなど、すべてが自分に関係のある事柄として考えてほしいのです。そのためにも、アメリカ経済について難しい話をするのではなく、学生たちがもっと外国を身近に感じられるような講義作りに取り組んでいきたいと思っています。

海外のみならず国内でも活躍できる国際人へ

現代文化学部では初年次教育として1年生前期で文化概論と演習を実施、その責任者も務めさせていただ

いています。大学に入ったばかりの学生に学びを充実させることを目的とし、まずは講義でのメモの取り方に始まり、発表の仕方やレポートの書き方、テーマの選び方にいたるまで細かく指導していきます。はじめにしっかりと学びの力を身につけ、4年間を通じてさまざまな事柄に対応できる学力や応用力などを身につけてほしいと思っています。今、社会から求められている人材は社会人としての基礎力はもちろん、エンプロイヤビリティ(雇用されうる能力)も備えた人。こうした人材を育成するために、大学教育への要請は年々多岐にわたって多くなりつつあります。その声に応え、社会から求められる力を持った学生を育てていきたいと思っています。

また学生たちには真の国際人としての力も身につけてほしいと願っています。今の日本は一部の人のみが外国と関わりを持っている訳ではなく、もはや生活そのものがグローバル化しています。日本にも外国人が増え、COP10など国際的な会議も国内で多く行われるようになりました。以前のように「外国で活躍できる」というのではなく外国の人々や文化を国内へ迎え入れる力を持つ、それが今求められている国際人としての力だと考えます。外国だけではなくグローバルな日本社会で活躍できる、そんな国際人になってほしいと願っています。

大橋先生はどんな人!?



「国際リーディングス」を履修する2年生の皆さんに大橋先生はどんな人かをたずねました。すると「歴史や経済、ニュースのことなど質問したことには何でも答えてくれる」など、常に学生と正面から向き合う先生の人柄を挙げる声が多く聞かれました。また「優しい」「笑顔が素敵」など親しみやすい先生でもあるようです。